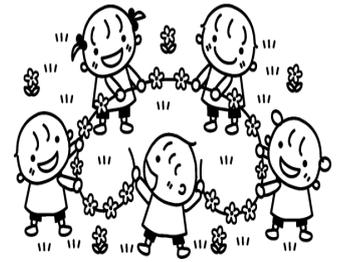




しよき

# ぜんくしろだより



全釧路教職員組合・書記古川和美

2019・2・17

’18年度

NO13

## クレスコ2月号に載りました!!

クレスコ編集委員会・全日本教職員組合が発行している「クレスコ（大月書店）」2月号に全釧路教職員組合の活動の様子が載りました!!。

TKプロ（T=多忙化、K=解消プロジェクト）メンバーの1人、執行委員の中川先生が2年前から、職員室の中で実践している様子がわかりやすく書かれています。（次ページに全文掲載しています。）組合の意見をあたためながら職員室の話聞き取り、校長先生も含めて、学校全体の働き方改革を進めているすばらしい実践です。ぜひお読みください。

このTKプロの活動は反響をよび、全教の定期大会でも報告しました。

今までTKプロで出したポスター・チラシ（全5枚）を持ち込み、伝えました。

“これはすごい、データ欲しい、うちの学校でも伝えたい”とポスターの写真を撮っていく人、大会の休憩時間の合間にも質問に答える中川先生の姿がありました。（中川先生、大変お疲れさまでした。）



なんとこの発言が新聞赤旗の全国紙（2月13日付）にまで大きく掲載されました!!

全釧路教職員組合1人1人が世の中を大きく動かしています。♡



# 職員室を変えるTKプロジェクト

中川由美・北海道・小学校教員

## ●TKプロジェクトの立ち上げ

私は2年前に立ちあげたTKプロジェクト（T＝多忙化、K＝解消）のメンバーの一人です。教員の超勤問題について本腰を入れてとりくむために始まった活動で、今までに様々な活動をしてきました。

それと同時に、「自分の職場でのTKを探る」実践をおこない、プロジェクトの考えによる職員室の変容を期待しました。

まずは職員室で、TKプロジェクトが立ち上がったことをアピールすることから始めました。作成したチラシを配りながら、「自分の要領が悪いせいじゃないよ」「人を増やすか、業務を削減しないと、もういっぱいだよ」「先生もだけど、子どもも苦しいよね」など寄り添いながら、多忙についてこえをあげていいんだ、という風土づくりにとりくみました。

個々の教員がどんなライフスタイルで、どんな忙しさの悩みを抱えているかもつかむようにしました。そのためか、放課後の職員室で、忙しさについて自由に話せるようになってきました。

TKプロで作成しているポスターも有効でした。漫画入りで目にとまりやすく、「ブラック化にメスを」「残業代が出ない」など、インパクトのある見出しがついているポスターが発行されるたびに、印刷機の近くの壁に貼り、増やしていきました。

印刷をするたびに目にふれます。ポスターが投げかける問題について考えます。いい場所に貼ったなと思いました。



道労連の提起する暮らしを考  
える  
運動のマスコットキャラクタ  
ー

### 「8MAN」

- 「8」は8時間。
- 「M」は「まとも」の「M」。まともに8時間働いて「帰る」「休む」。まともな「人員配置」「暮らし」「賃金」を意味しています。
- 「A」は「あそび」。1日のうち8時間は、自分や家族のために使う大切な時間です。
- 「N」は「ねる」。1日8時間は仕事のことを考えずゆっくり安眠できる時間に。

## ●ポスターの効果か、変化が生まれる



問題点の明らかになっているポスターを目にする効果か、会議の中でも発言に変化が見られてきます。管理職から「閉庁日」や「定時退勤日」の話が出た時、反発、怒りが声になりました。

「時間だけ決めたってだめ」「本当に帰れるようにして」「ただ早く帰りたいのではない。授業準備がしたいんだ」等。出た発言は、今まで放課後の自由な会話でやりとりされたこと、ポスターで発言した言葉などでした。素晴らしい変化を感じ、一人嬉しくなりました。

かといって管理職と対立しているわけでもありません。校長はPTA総会で、

「うちの学校もブラックです。先生たちは遅くまで残って仕事をしている。どうかご協力を」と発言しました。その後、保護者から「テレビで言っていることは都心の学校のことだと思っていました。」「そんなに遅くまで残っているのを知らなか

った。先生無理しないでね」などと言われた反応を校長に伝えました。

校長は発言に自信を持ち、次は学校便りにて「教職員の働き方改革」という記事を書き、教員の勤務時間、どれだけの忙しさかなどを掲載しました。組合としても賞賛の声を送り、次はさらに詳細な勤務時間についての掲載がされていきます。

### ●教頭や教務主任とも連携して

教頭とは日常的に、多忙化解消に関する話をするようにしています。先生方から聞いたことをまとめて伝えたり、教頭の悩みも聞いたり。組合としても、より良い職員室になっていくことを全面的に支援するという姿勢で、絶えず進言し、多忙化への意識を途絶えさせない声かけをしています。

その中で、「超勤アンケートをおこないたい」という考えを聞いたので、一緒に準備を進め、今年度、時期を変えて2回実施しました。出退勤の時刻だけでなく、何をしたかも記入します。土日も含め、持ち帰りの仕事についても調査しました。



結果、全員が超勤。特に学級担任は相当な超勤であると、データとして明らかになりました。これをもとに、どのようなことをおこなっていくか、準備を進めているところです。

教務主任は次年度の時数確保のために、各分掌に活動の削減を提案しました。このことにも提案前に話を聞き、どのような理由で、どのようにおこなっていくか考え合いました。

中心に据えたのは、「子どもたちが楽しみにしていること、子どもたちの成長が望めるものは、最後の最後まで削減しない」ということでした。この考えのもと検討がなされ、時数を生み出すことに成功しました。

### ●自由に話せる雰囲気職員室に

多忙化解消の根本は、職員室内だけではできないことの方が多いです。でも今回、TKプロでおこなっている活動をいかしながら、自分たちの職員室を自分たちの手で変えていくことができるのだ、と思うことができました。職員室に自由に話せる風土をつくり、みんながつながり、発言し、少しずつでも自分たちで考えて進めている、という実感の持てることが大事だともわかりました。

まだまだ途上ですので、これからも継続していきます。職員室が違えば進み方も違いますが、みなさんの職場での活動のヒントになれば幸いです。

